

岡山県感染症週報 2015 年 第 25 週 (6 月 15 日～6 月 21 日)

◆2015 年 第 25 週 (6/15～6/21) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 23 週	5 類感染症	水痘 (入院例に限る)	1 名 (10 代 男)
第 24 週	2 類感染症	結核	4 名 (50 代 女 1 名、60 代 女 1 名、70 代 女 1 名、80 代 女 1 名)
	4 類感染症	レジオネラ症	1 名 (90 代 女)
	5 類感染症	後天性免疫不全症候群	1 名 (20 代 男)
第 25 週	2 類感染症	結核	1 名 (30 代 女)
	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3 名 (O26: 10 代 男 1 名、O157: 40 代 男 1 名、O 型別不明: 30 代 女 1 名)
	4 類感染症	マラリア	1 名 (30 代 女)
	5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 名 (90 代 女)
		後天性免疫不全症候群	1 名 (50 代 男)

■定点把握感染症の発生状況

- 感染性胃腸炎は、県全体で 341 名 (定点あたり 6.63 → 6.31 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- 手足口病は、県全体で 191 名 (定点あたり 2.33 → 3.54 人) の報告があり、前週より増加しました。
- 伝染性紅斑は、県全体で 18 名 (定点あたり 0.35 → 0.33 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- ヘルパンギーナは、県全体で 50 名 (定点あたり 0.37 → 0.93 人) の報告があり、前週より増加しました。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 25 週に 3 名の発生報告があり、岡山県の 2015 年累計報告数は 8 名となりました。過去 10 年間の同時期と比較して、患者報告数は少ない状態ですが、例年 5、6 月頃から徐々に増加する傾向があります。手洗いを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で 341 名 (定点あたり 6.63 → 6.31 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、美作地域 (8.67 人)、倉敷市 (8.27 人)、備前地域 (7.20 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など、詳しくは「[感染性胃腸炎週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015 年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
3. **手足口病**は、県全体で 191 名 (定点あたり 2.33 → 3.54 人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、真庭地域 (8.50 人) 及び倉敷市 (6.55 人) で、定点あたり報告数が 5 人を上まわったため、発生レベル 3 となりました。県内の発生状況など、詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
4. **伝染性紅斑**は、県全体で 18 名 (定点あたり 0.35 → 0.33 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、岡山市 (1.00 人)、真庭地域 (1.00 人)、倉敷市 (0.18 人) で発生報告があります。この感染症は、ヒトパルボウイルス B19 の感染によるもので、紅斑を主症状とする流行性発疹性疾患です。両頬がりんごのように赤くなることから、「りんご病」とも呼ばれています。頬に発疹が出現する 7～10 日前に、微熱や咳などの風邪の様な症状がみられることがあり、この時期にウイルスの排出量が最も多くなります。ウイルス排出期には特徴的な症状を示さないため、実際的な二次感染予防策はありません。しかし、妊娠中 (特に妊娠初期) に感染した場合、胎児異常 (胎児水腫) や流産の危険があるため、妊娠中の方は伝染性紅斑が周囲で流行している時、風邪の症状がある人に出来るだけ近づかないよう注意が必要です。
5. **ヘルパンギーナ**は、県全体で 50 名 (定点あたり 0.37 → 0.93 人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、岡山市 (0.21 → 2.29 人) で定点あたり報告数が前週より大きく増加しました。岡山市、備前地域 (1.14 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、夏に発生する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表疾患です。例年、6 月頃から急激に発生報告数が増加し、7 月頃にピークを迎えます。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を励行するなど、感染予防に努めましょう。

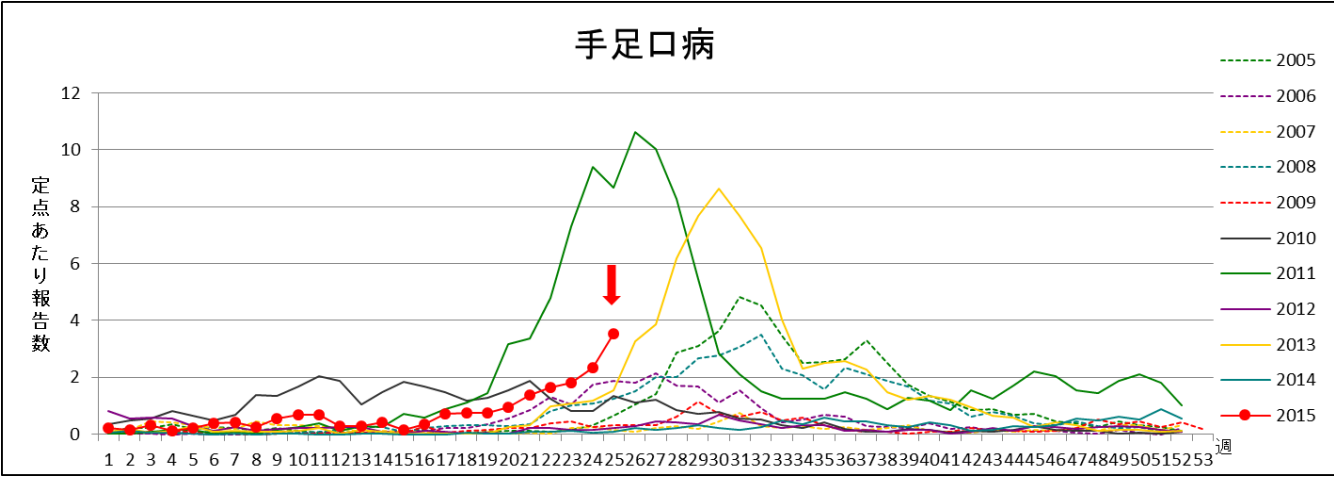
流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★	RSウイルス感染症	↓	★
咽頭結膜熱	↙	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↙	★★
感染性胃腸炎	→	★★	水痘	↗	★
手足口病	↗	★★	伝染性紅斑	→	★★★
突発性発疹	↗	★	百日咳	↑	
ヘルパンギーナ	↑	★	流行性耳下腺炎	→	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	→	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	↓	★★
マイコプラズマ肺炎	→		クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

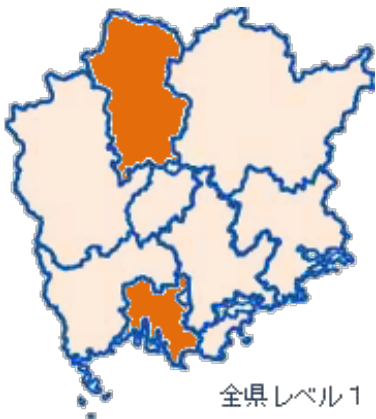
【記号の説明】 前週からの推移： ↓：2 倍以上の減少 ↙：1.1～2 倍未満の減少 →：1.1 未満の増減
 ↗：1.1～2 倍未満の増加 ↑：2 倍以上の増加
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症
手足口病

【岡山県の発生状況】



手足口病感染症マップ 2015年 25週

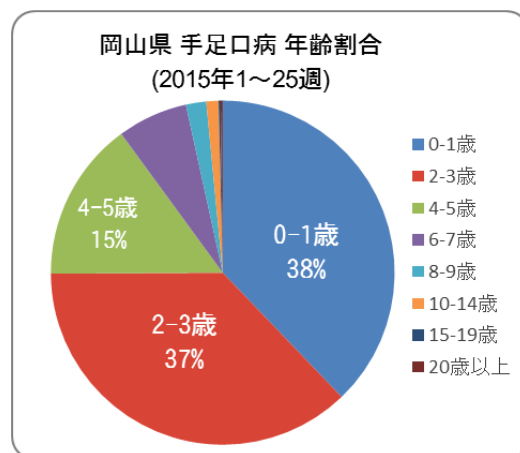
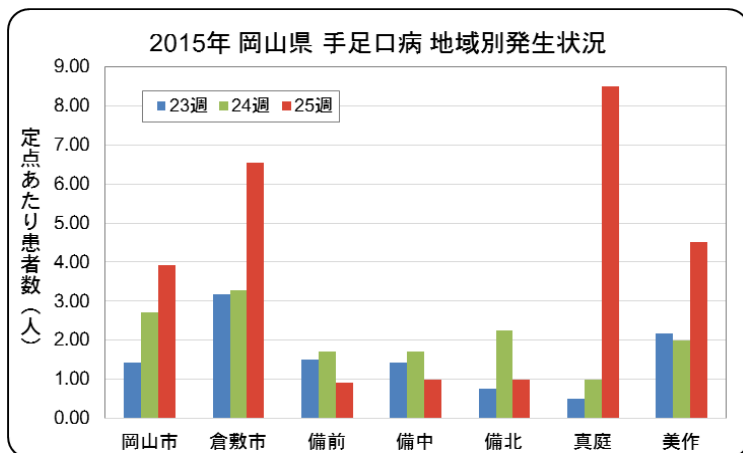


＜手足口病 発生レベル 基準＞

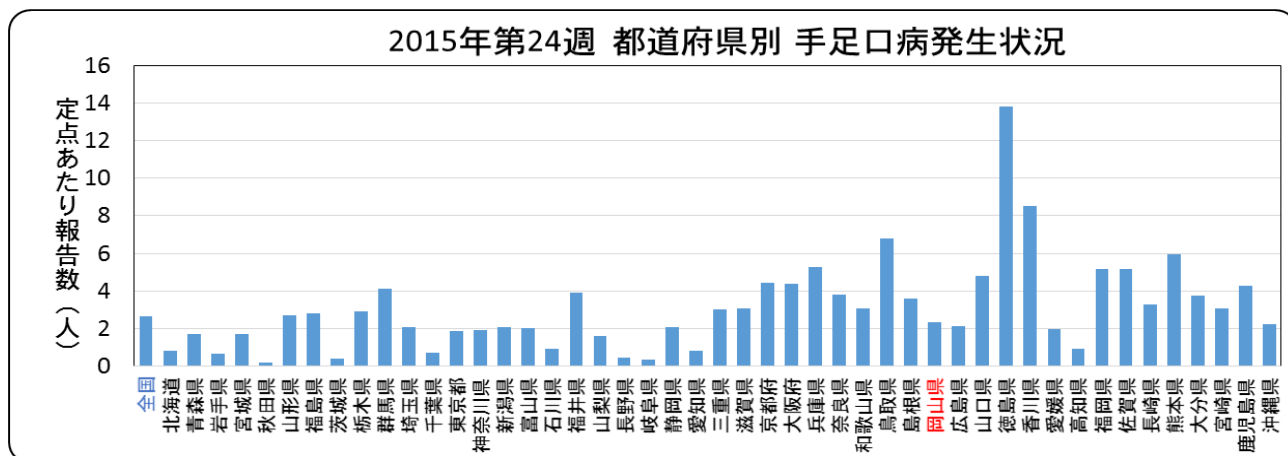
レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
5	2	
レベル1		報告なし
基準値	基準値	基準値
0 < 5 未満		0

レベル 3 の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル 3 が継続されます。

手足口病は、県全体で 191 名（定点あたり 2.33 → 3.54 人）の報告があり、第 20 週から 6 週連続で増加しました。過去 10 年間の同時期と比較すると、大流行となった 2011 年に次いで、2 番目に多い報告数となっています。地域別では、特に真庭地域（1.00 → 8.50 人）で定点あたり報告数が急増しており、倉敷市（6.55 人）、美作地域（4.50 人）岡山市（3.93 人）でも前週より増加しています。真庭地域及び倉敷市では、定点あたり報告数が 5 人を超えたため、発生レベル 3 となりました。年齢別では、3 歳以下の乳幼児が全体の 75% を占めており、5 歳以下を中心に流行しています。



【全国の発生状況】



全国の第 24 週の発生状況は、定点あたり 2.67 人で、都道府県別では、徳島県（13.83 人）、香川県（8.50 人）、鳥取県（6.79 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、西日本を中心に流行しています。手足口病の流行のピークは、例年、7～8 月頃ですが、6 月頃から患者数の増加が見られます。

[IDWR 速報データ 2015 年第 24 週（国立感染症研究所）](#)

【手足口病とは】

夏に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。感染している人が、咳やくしゃみをした際に飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込む飛沫感染や、水疱の内容物や便中のウイルスが手指などを介して口の粘膜に入る接触・経口感染によって感染します。

【症状】

3～5 日の潜伏期間の後、軽度の発熱とともに、口腔粘膜、手掌、足底や足背に 2～3mm の水疱性発しんが出現するのが特徴です。3～7 日で水疱が消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎を起こすことがあります。特に、エンテロウイルス 71 型による手足口病は、中枢神経系合併症など、重症化する割合が高いと言われています。

【治療】

特別な治療法はありません。基本的に軽い症状の病気のため、経過観察を含め、症状に応じた対症療法が行われます。口の中に発しんができて食事を取りにくい場合、柔らかい薄味の食事にするなどの工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。また、嘔吐、頭痛、発熱が 2 日以上続く、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。

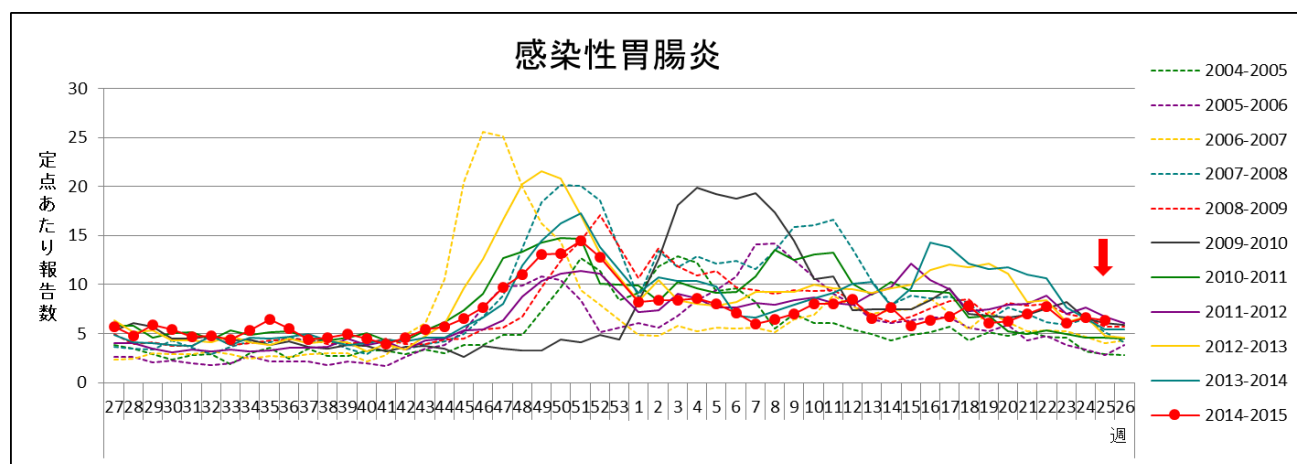
【予防】

手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは、特に注意が必要です。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒・適切に排泄物を処理するなど、感染予防に努めましょう。

[手足口病とは（国立感染症研究所）](#)

感染性胃腸炎週報 2015年 第25週 (6月15日～6月21日)

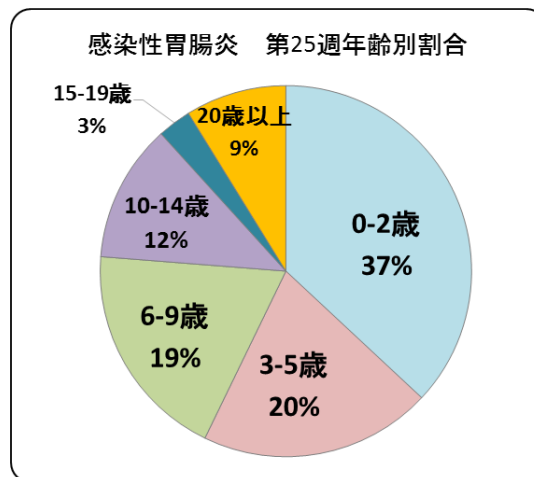
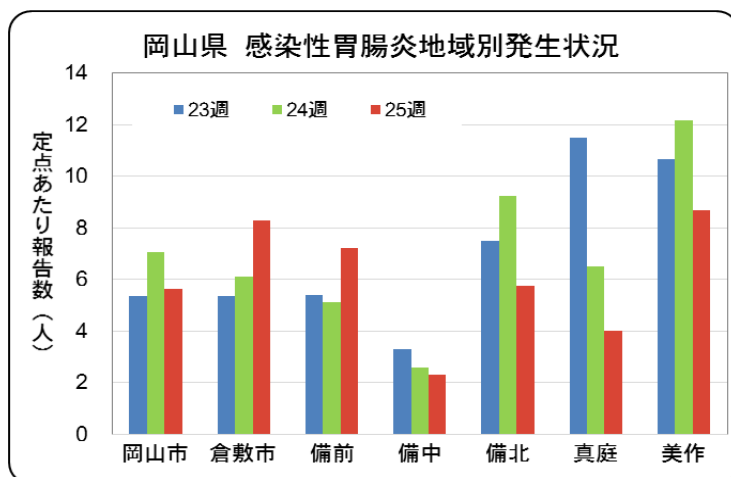
○感染性胃腸炎は、県全体で341名（定点あたり6.63→6.31人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。



感染性胃腸炎は、県全体で341名（定点あたり6.63→6.31人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、美作地域（8.67人）、倉敷市（8.27人）、備前地域（7.20人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別割合では、5歳以下の乳幼児が全体の57%を占めています。

例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎も増加します。岡山県では「食中毒注意報」を発令し、注意を呼びかけています。特にトイレの後や調理・食事の前には、石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



◆◆◆ 食中毒を予防しましょう！ ◆◆◆

- トイレの後・調理前・食事の前には、手をよく洗いましょう。
- まな板・ふきんなどの調理器具は、十分に洗浄消毒しましょう。
- 生鮮食品や調理後の食品は、早めに冷蔵庫に入れましょう。
冷蔵庫に入れても、細菌はゆっくり増殖するため、冷蔵庫を過信せず、早めに食べることが大切です。
- 加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
特に、食肉は中心部まで火を通し、生食は避けましょう。

[食中毒注意報を発令しました！（岡山県生活衛生課）](#)
[食中毒に関する情報（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数(定点把握) 2015年 25週

(2015/06/15～2015/06/21)

2015年6月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	—	—	—	—	—	—	1	0.08	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	21	0.39	12	0.86	2	0.18	—	—	5	0.71	1	0.25	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	1.13	17	1.21	22	2.00	—	—	14	2.00	4	1.00	—	—	4	0.67
感染性胃腸炎	341	6.31	79	5.64	91	8.27	72	7.20	16	2.29	23	5.75	8	4.00	52	8.67
水痘	7	0.13	3	0.21	—	—	1	0.10	2	0.29	1	0.25	—	—	—	—
手足口病	191	3.54	55	3.93	72	6.55	9	0.90	7	1.00	4	1.00	17	8.50	27	4.50
伝染性紅斑	18	0.33	14	1.00	2	0.18	—	—	—	—	—	—	2	1.00	—	—
突発性発疹	32	0.59	12	0.86	7	0.64	3	0.30	2	0.29	3	0.75	2	1.00	3	0.50
百日咳	3	0.06	—	—	—	—	—	—	2	0.29	1	0.25	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	50	0.93	32	2.29	4	0.36	3	0.30	8	1.14	1	0.25	—	—	2	0.33
流行性耳下腺炎	23	0.43	5	0.36	2	0.18	—	—	4	0.57	—	—	1	0.50	11	1.83
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	3	0.60	1	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	－	－	－	－	－	－	1	0.08	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	21	0.39	12	0.86	2	0.18	－	－	5	0.71	1	0.25	－	－	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	1.13	17	1.21	22	2.00	－	－	14	2.00	4	1.00	－	－	4	0.67
感染性胃腸炎	341	6.31	79	5.64	91	8.27	72	7.20	16	2.29	23	5.75	8	4.00	52	8.67
水痘	7	0.13	3	0.21	－	－	1	0.10	2	0.29	1	0.25	－	－	－	－
手足口病	191	3.54	55	3.93	72	6.55	9	0.90	7	1.00	4	1.00	17	8.50	27	4.50
伝染性紅斑	18	0.33	14	1.00	2	0.18	－	－	－	－	－	－	2	1.00	－	－
百日咳	3	0.06	－	－	－	－	－	－	2	0.29	1	0.25	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	50	0.93	32	2.29	4	0.36	3	0.30	8	1.14	1	0.25	－	－	2	0.33
流行性耳下腺炎	23	0.43	5	0.36	2	0.18	－	－	4	0.57	－	－	1	0.50	11	1.83
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	4	0.33	3	0.60	1	0.25	－	－	－	－					－	－

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第25週 2015/06/15～2015/06/21)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	21	-	-	6	4	5	-	2	3	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	-	2	1	1	7	12	8	6	4	8	5	3	-	4
感染性胃腸炎	341	7	27	56	36	28	17	24	19	17	15	14	41	10	30
水痘	7	-	1	-	1	2	1	-	-	-	-	-	1	1	-
手足口病	191	1	8	49	41	36	21	11	12	3	4	1	3	1	-
伝染性紅斑	18	-	-	4	1	4	1	3	-	1	-	4	-	-	-
突発性発疹	32	1	17	11	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1
ヘルパンギーナ	50	1	5	11	12	7	7	4	-	-	-	2	-	1	-
流行性耳下腺炎	23	-	-	6	1	2	3	5	1	1	-	2	1	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-

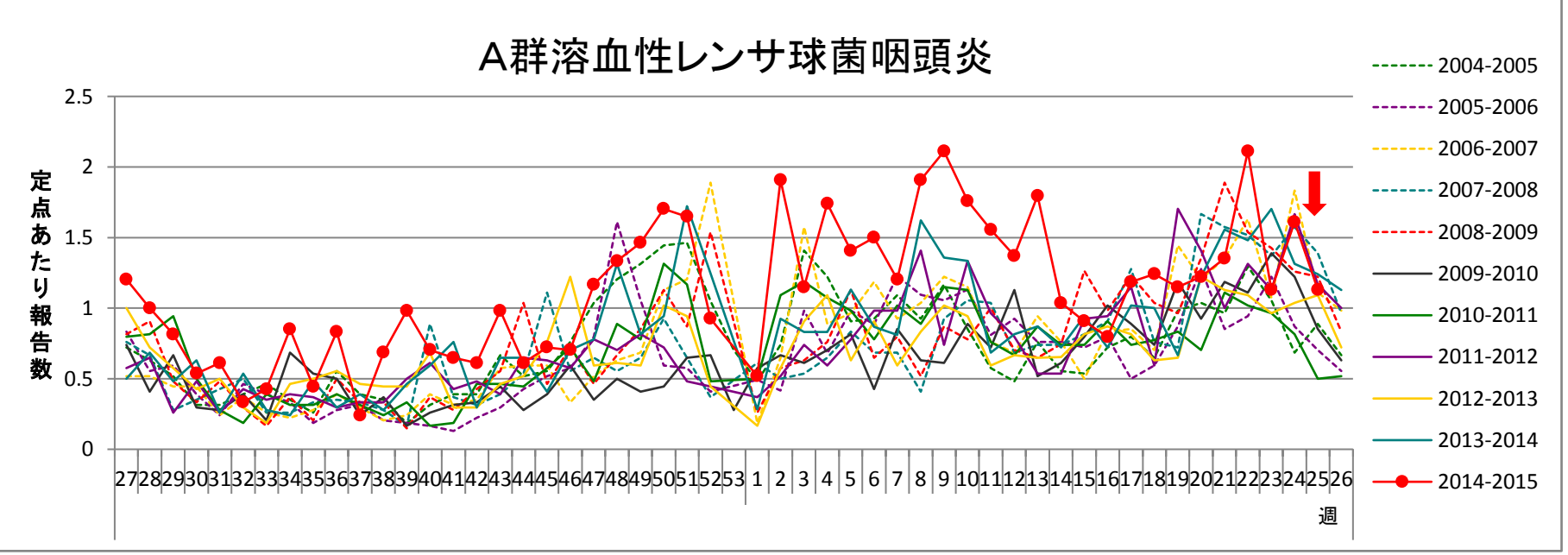
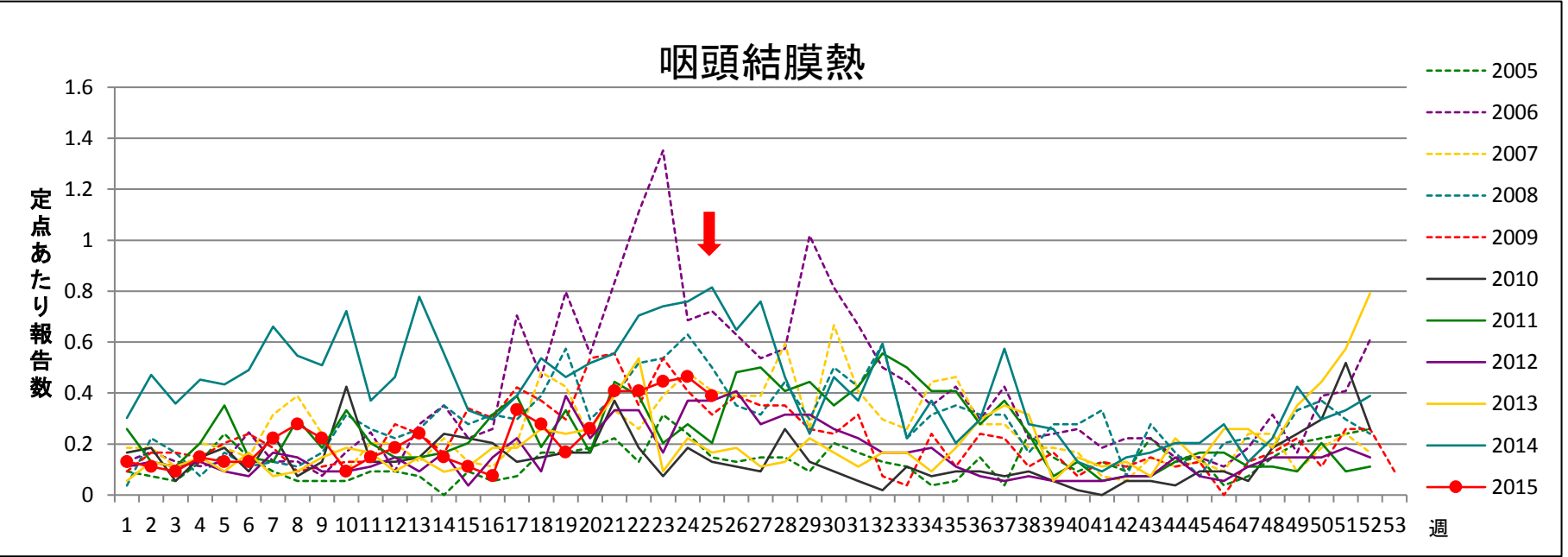
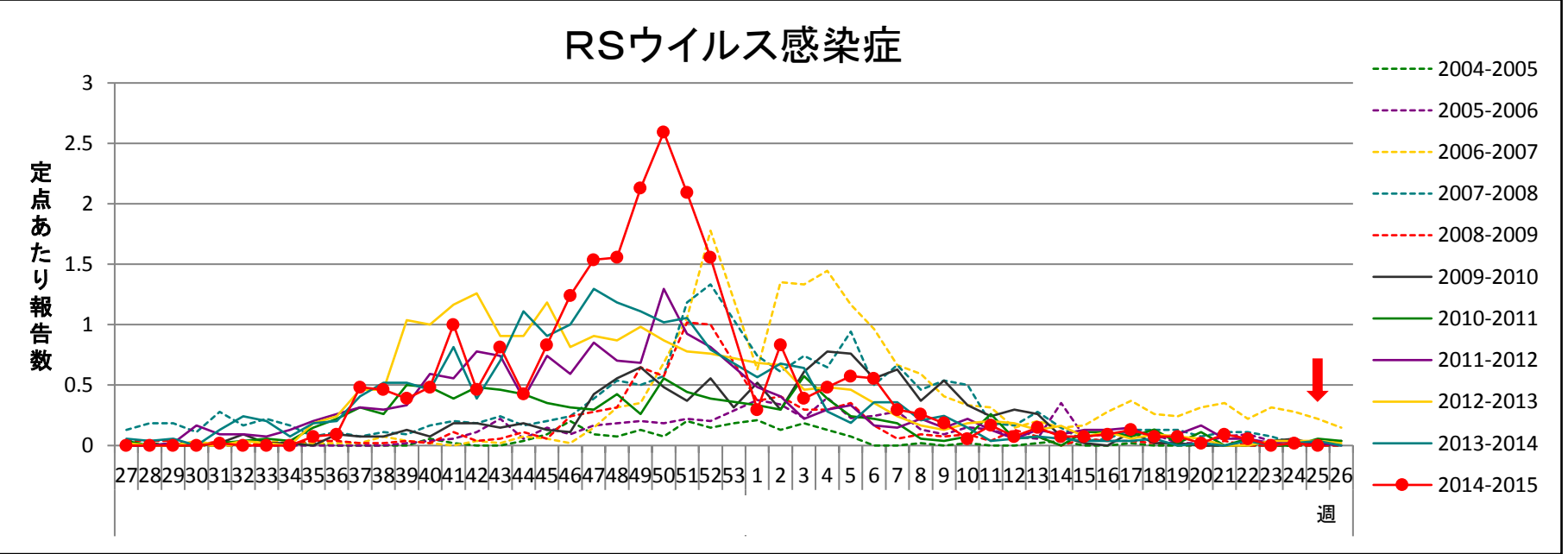
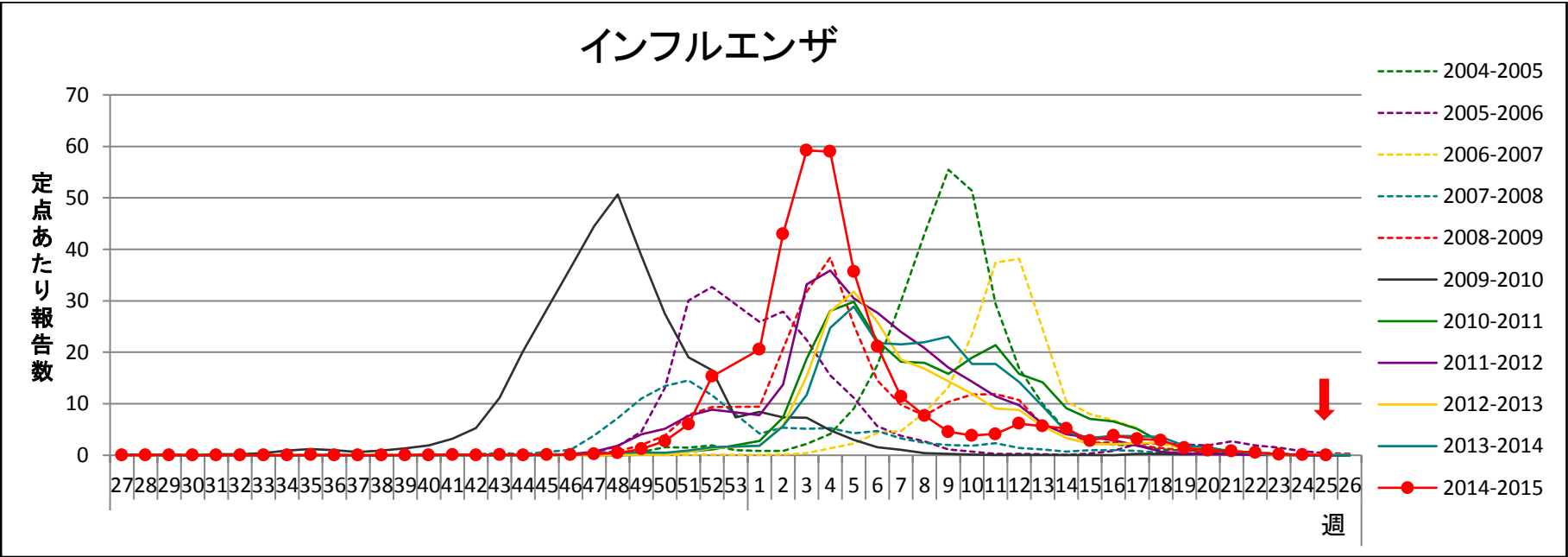
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

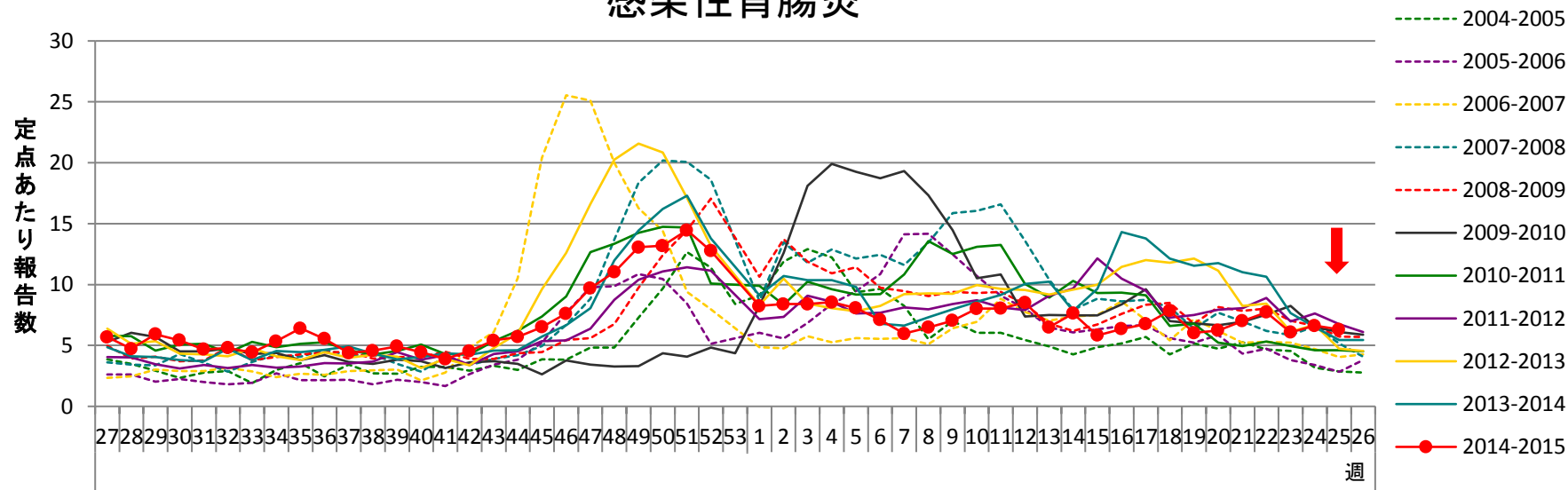
全数把握 感染症患者発生状況

2015 年 25 週

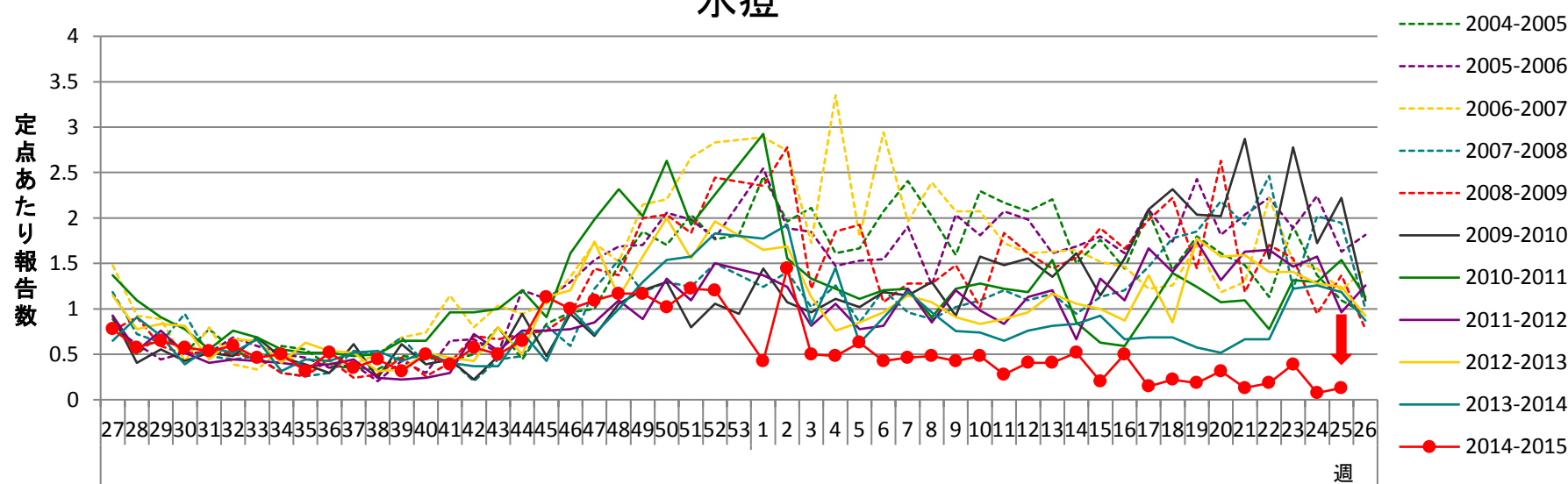
分類	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	1	149	384	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	1	－	腸管出血性大腸菌感染症	3	8	71
	腸チフス	－	－	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	2	2	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	6	8
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	1	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサヌル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	－	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	－	2	デング熱	－	－	1
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	－	－	4	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	1	1	－	野兔病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	10	32	レプトスピラ症	－	－	－
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	五類	アメーバ赤痢	－	10	12	ウイルス性肝炎*3	－	4	7	カルバベナム耐性腸内細菌科細菌感染	1	19
急性脳炎*4		－	7	9	クリプトスポリジウム症	－	1	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	－	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		－	－	3	後天性免疫不全症候群	1	13	21	ジアルジア症	－	－	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症		－	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	20	27
水痘(入院例に限る。)		－	1	6	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	8	21
播種性クリプトкокクス症		－	1	1	破傷風	－	－	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		－	－	2	風しん	－	－	2	麻しん	－	－	6
薬剤耐性アシネトバクター感染症		－	－	－		－	－	－		－	－	－



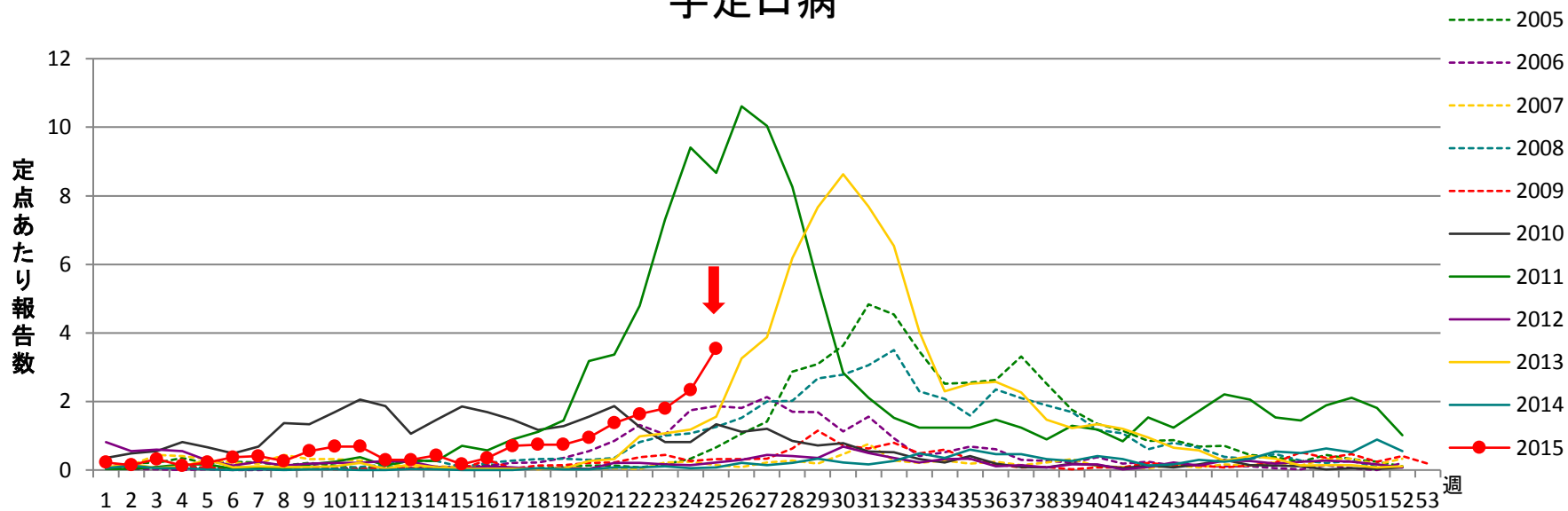
感染性胃腸炎



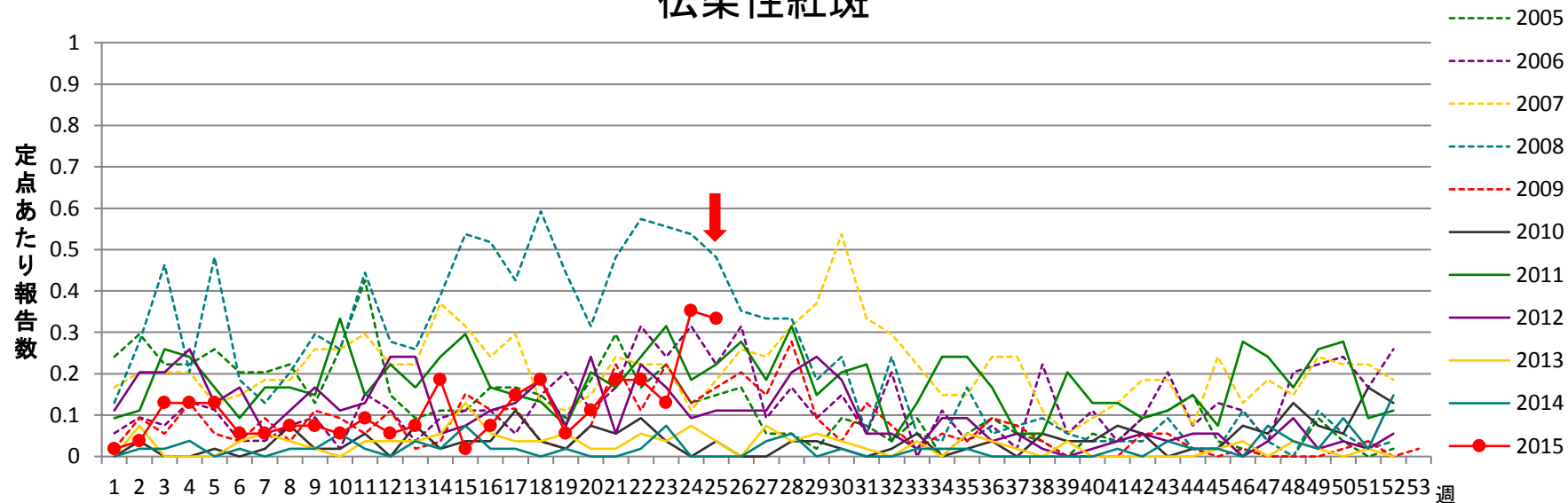
水痘



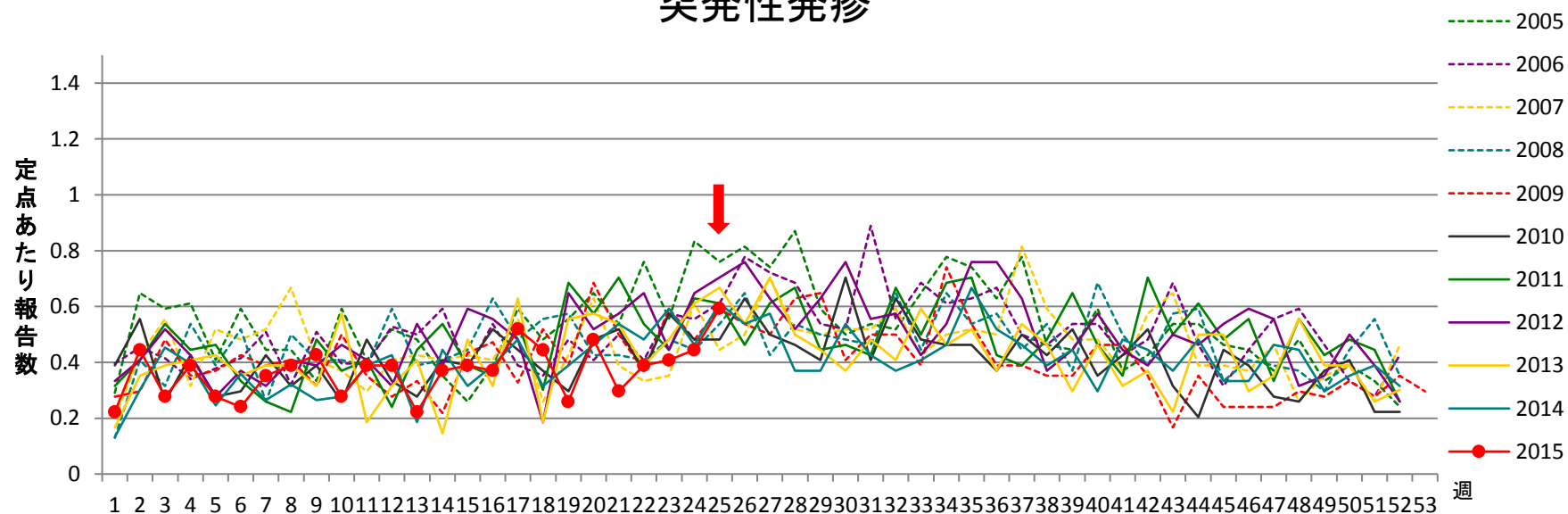
手足口病



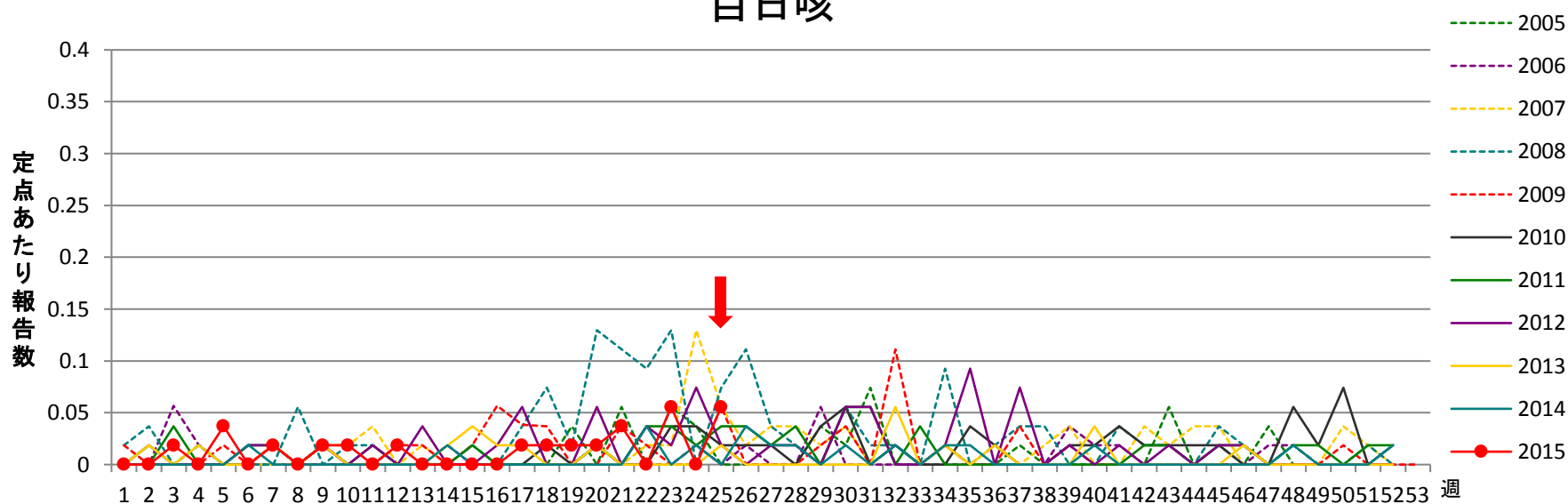
伝染性紅斑



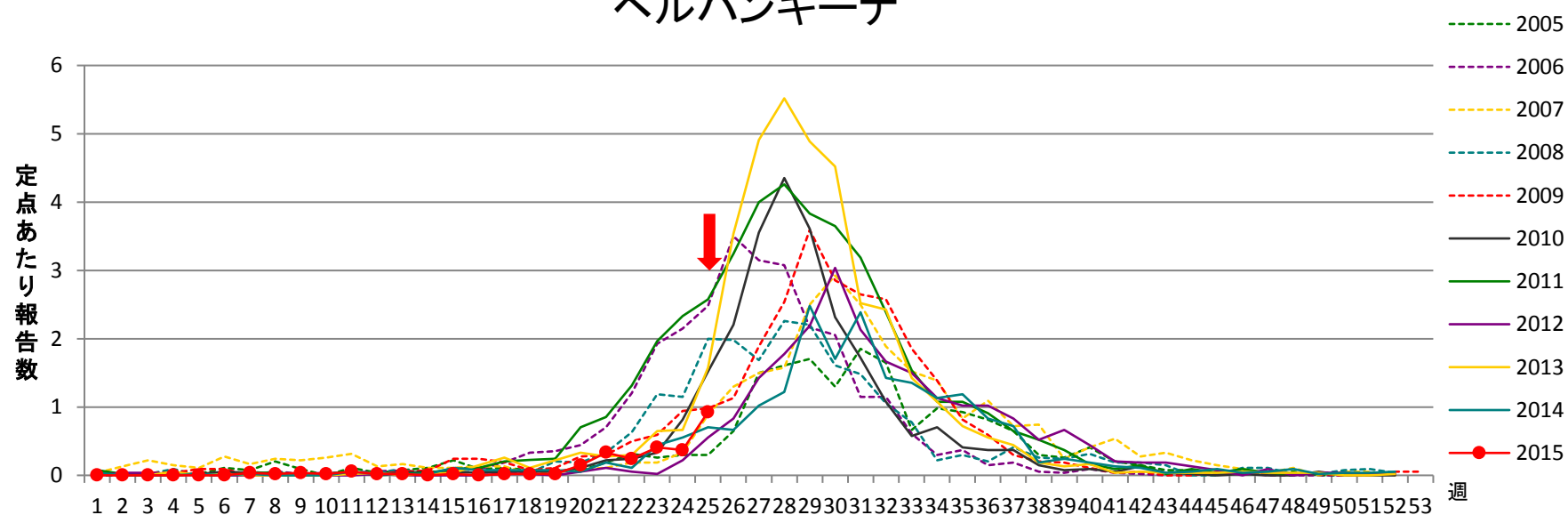
突発性発疹



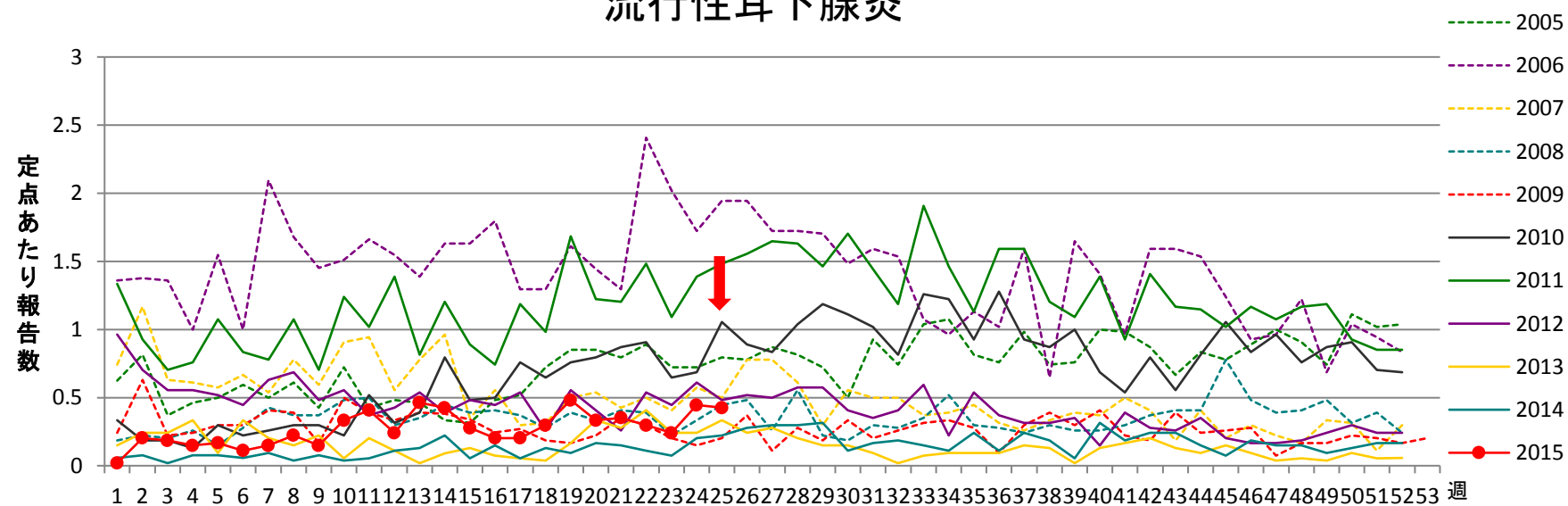
百日咳



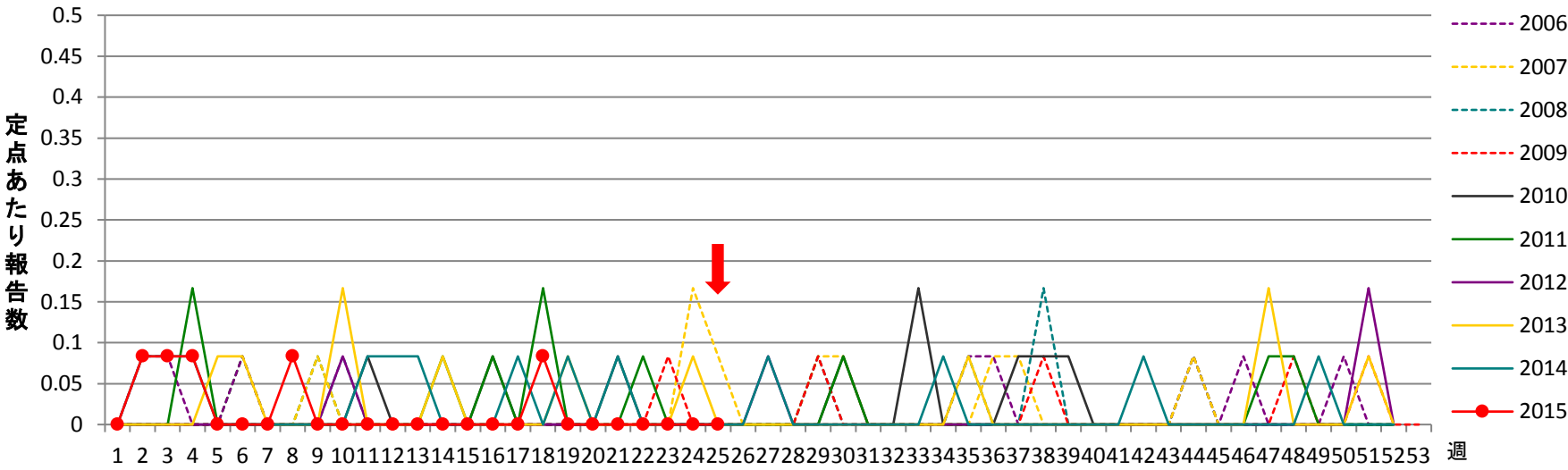
ヘルパンギーナ



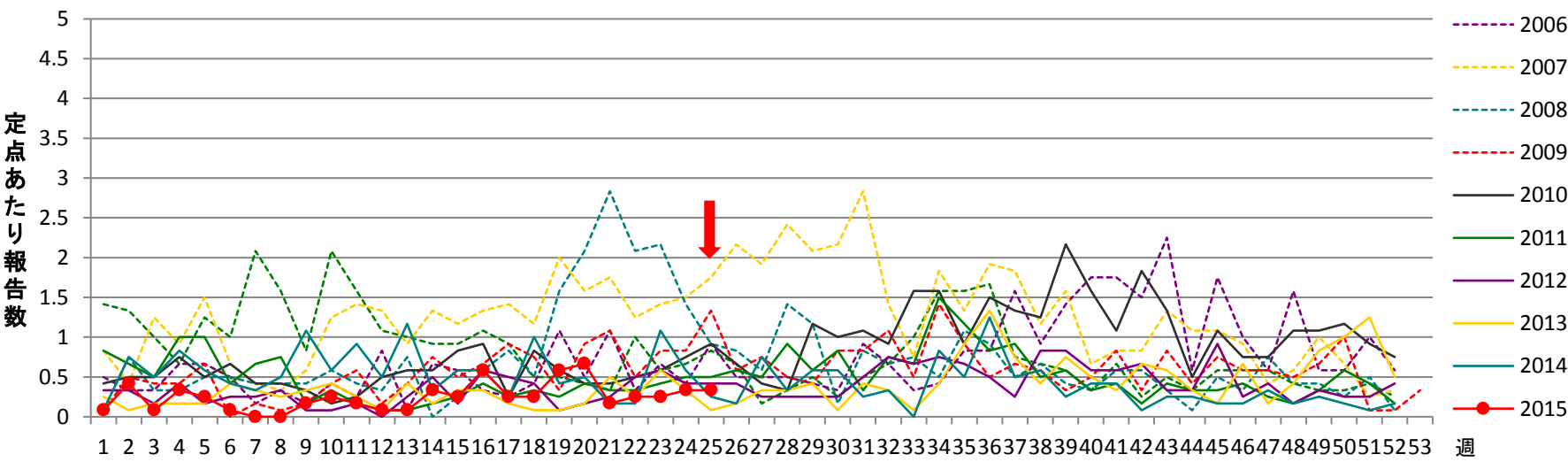
流行性耳下腺炎



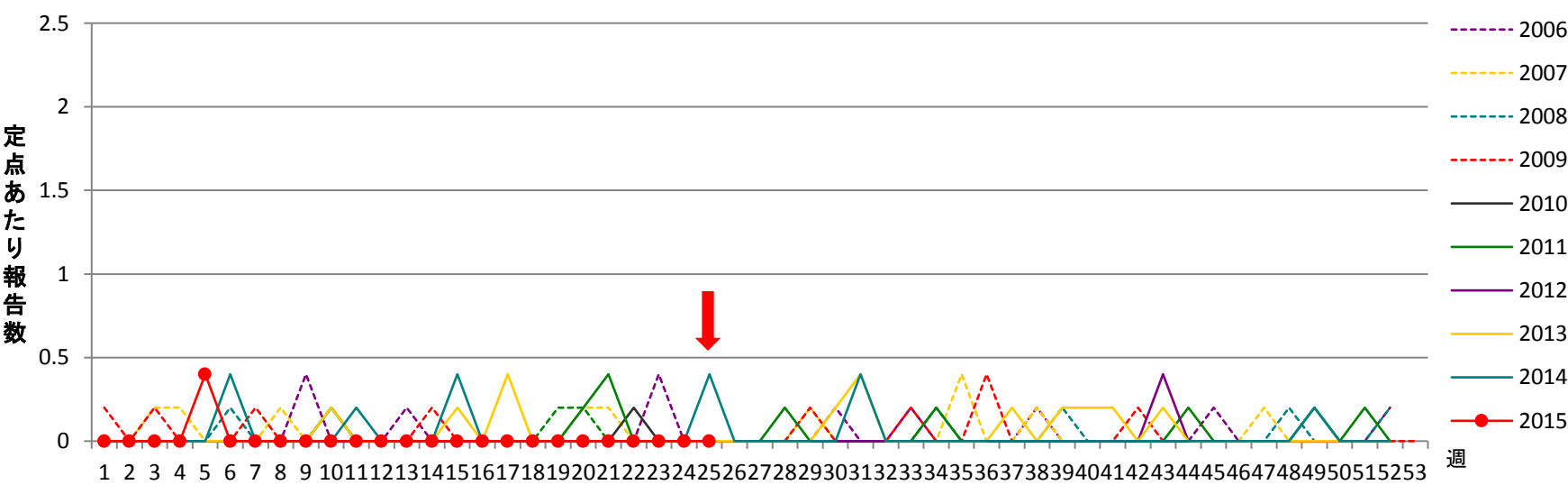
急性出血性結膜炎



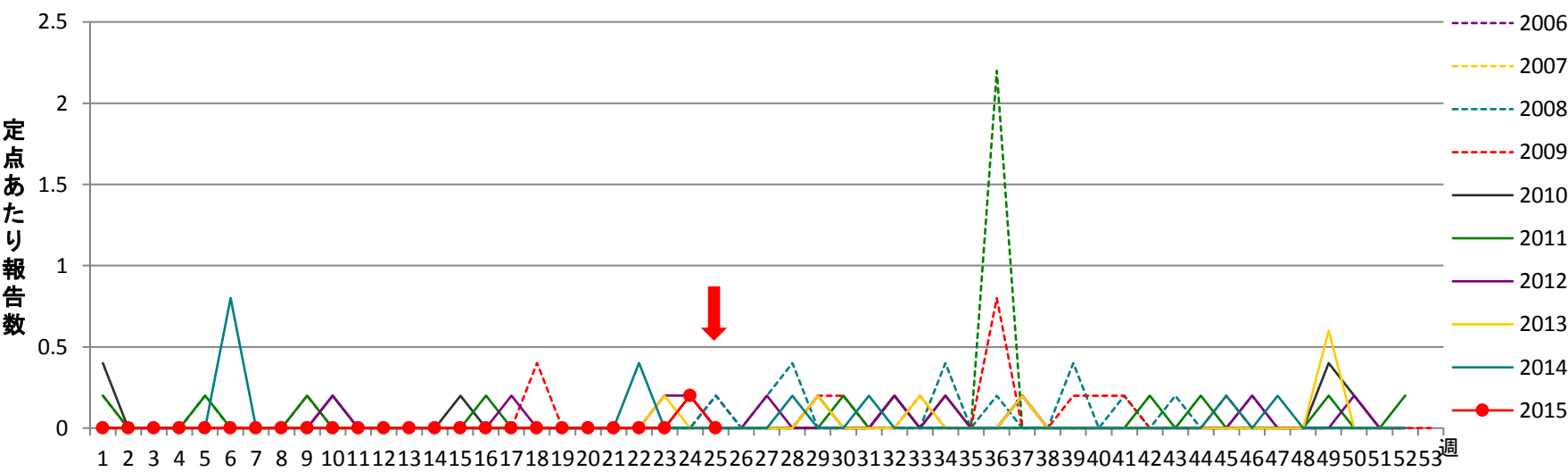
流行性角結膜炎



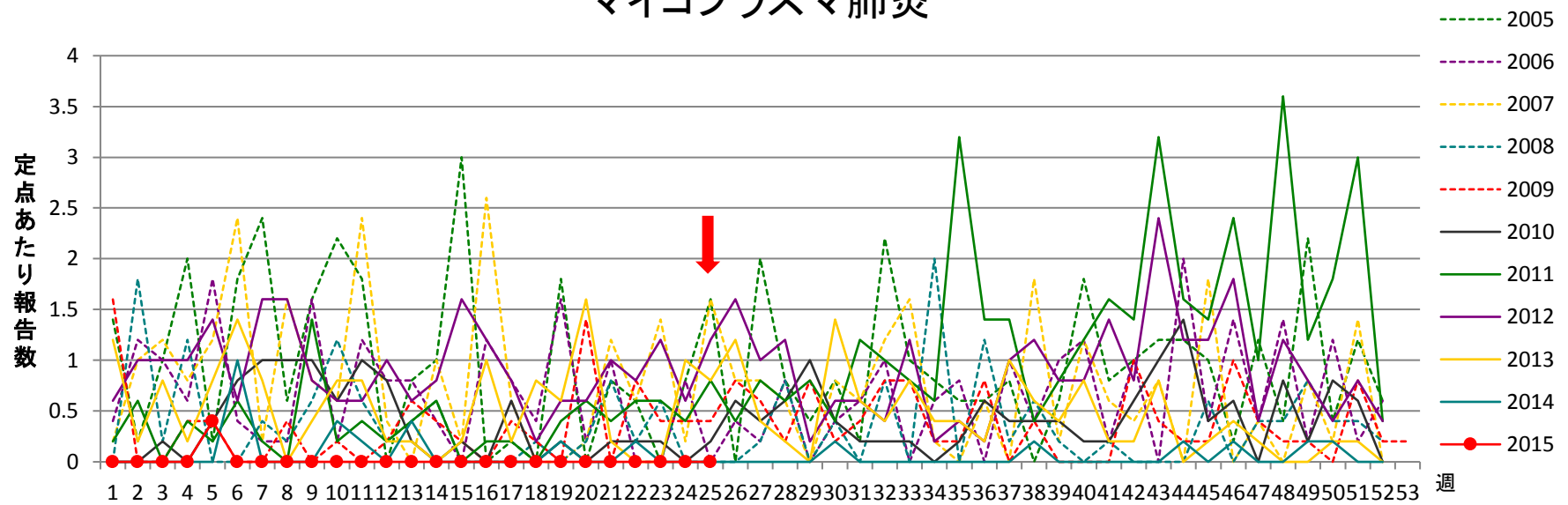
細菌性髄膜炎



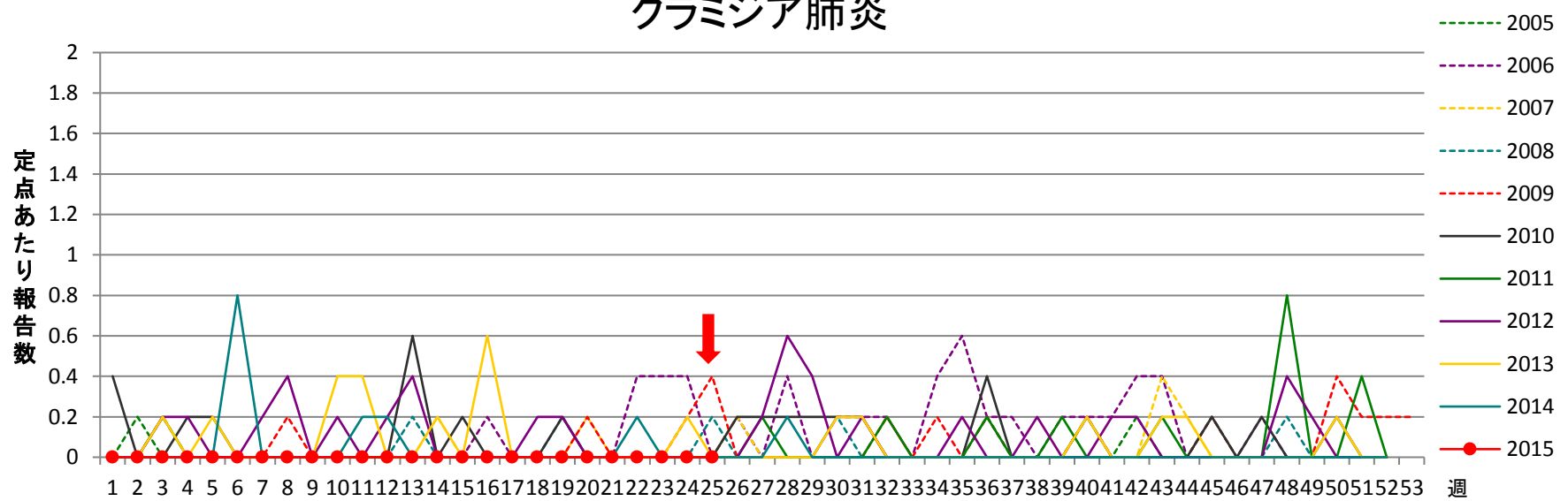
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

